

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 6 月 5 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (6/5 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系: 約 1.9 m <sup>3</sup> /h	25.3	107.3 kPa abs	A系: 0.02 vol%
		給水系: 約 2.4 m <sup>3</sup> /h			B系: 0.04 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系: 約 3.5 m <sup>3</sup> /h	38.4	5.28 kPa g	A系: 0.07 vol%
		給水系: 約 2.0 m <sup>3</sup> /h			B系: 0.06 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系: 約 3.5 m <sup>3</sup> /h	36.3	0.25 kPa g	A系: 0.13 Vol%
		給水系: 約 2.0 m <sup>3</sup> /h			B系: 0.12 vol%

\*: 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

[1号機]・H25/6/4 20:02 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 2.2m<sup>3</sup>/h から約 2.5m<sup>3</sup>/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 1.9m<sup>3</sup>/h から約 2.0 m<sup>3</sup>/h に調整。

[2号機]・H25/6/4 20:02 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.9m<sup>3</sup>/h から約 2.0m<sup>3</sup>/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 3.4m<sup>3</sup>/h から約 3.5m<sup>3</sup>/h に調整。

[3号機]・H25/6/4 20:02 原子炉への注水量の変動が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.9m<sup>3</sup>/h から約 2.0m<sup>3</sup>/h に調整。炉心スプレイ系からの注水量は約 3.5m<sup>3</sup>/h で継続。

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (6/5 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	22.5
2号機	循環冷却システム	運転中	21.3
3号機	循環冷却システム	運転中	18.6
4号機	循環冷却システム	運転中	28

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容 処理建屋 ( 高温焼却炉建屋 ) ]	5/15 17:20 ~ 移送実施中

・H25/1/28 東北地方太平洋沖地震により、建屋および屋外トレンチが浸水している5・6号機について、建屋内の水位上昇を抑制するため、建屋内滞留水の移送を継続しているが、更なる安全性向上に資することを目的として、非常用ガス処理系\*1の屋外トレンチから仮設タンクへの滞留水の移送を開始。

\*1 原子炉建屋内の空気を高性能のフィルターで浄化して排気筒より放出する系統で、(A)、(B)の2系列ある。

## < 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (6/5 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

\* フィルタの洗浄を適宜実施。

- ・H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- ・H25/3/30 9:56 ~ 多核種除去設備(ALPS)の3系統(A~C)のうちA系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験(ホット試験)を開始。

## < 5 . その他 >

- ・H23/10/7 ~ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5,6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/4/25 ~ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H25/6/4 17:33 頃 福島県沖を震源とする地震(M4.8)が発生。その後、各プラントの点検を行った結果、異常がないことを確認。
- ・H25/6/5 12:15 頃 G6 - 1エリアの No.9 タンクの下から2段目と3段目の間のタンク壁面継ぎ目部(ジョイント部)より、3~4秒に1滴程度で水が漏れいしていることを、パトロール中の協力企業作業員が発見。漏れいした水は吸収材で吸い取っているため、堰内のコンクリート基礎部には到達していない。なお、移送先であった、G6 - 1エリアタンク 18 基のうち、当該 No.9 タンクについては、12:20 に隔離(受け入れ停止)を実施。念のため、地下貯水槽 No.6 からG6エリアタンクへの移送を、12:45 に停止。その後、当該ジョイント部の増し締めを 15:00 から 15:45 にかけて実施したものの、漏れいが停止しないことから、16:20 から 16:22 にかけて、隣のタンクに繋がる連絡弁を開いて、水位を低下させる処置を実施し、16:35、漏れいが停止したことを確認。原因等については現在調査実施中。モニタリングポスト指示値の有意な変動は確認されていない。

### 【地下貯水槽からの漏れいに関する情報および作業実績】

#### < 地下貯水槽に貯水している水移送実績 >

- 5/21 10:19 ~ 5/23 16:02 地下貯水槽 No.6 から G6 タンクへの移送を実施。なお、地下貯水槽 No.3 および No.6 から G6 タンクへの移送については、共通の移送ラインを使用することから、交互に切り替えて移送を実施する予定。
- 5/25 10:25 ~ 5/28 9:05 地下貯水槽 No.3 から G6 タンクへの移送を実施。
- 5/28 9:54 ~ 5/30 16:00 地下貯水槽 No.6 から G6 タンクへの移送を実施。
- 6/1 10:12 ~ 6/3 14:04 地下貯水槽 No.3 から G6 タンクへの移送を実施。
- 6/3 14:36 ~ 6/4 17:30 地下貯水槽 No.6 から G6 タンクへの移送を実施。
- 6/3 14:18 地下貯水槽 No.3 の残水について、仮設ラインを使用し、地下貯水槽 No.6 へ移送を開始。なお、今後、地下貯水槽 No.3 から地下貯水槽 No.6 への残水移送は日中のみに行う。
- 6/5 9:25 地下貯水槽 No.6 から G6 エリアタンクへの汚染水(残水)の移送を開始(移送は日中のみ実施)。

#### < 拡散防止対策 >

- 6/5 地下貯水槽 No.1 ~ 3の漏れい検知孔内に漏れいした水および地下貯水槽 No.2 のドレン孔に漏れいした水をノッチタンクへ移送する処置を実施。

#### < サンプルング実績 >

- 6/4 地下貯水槽 No.1 ~ 7のドレン孔水(14 箇所)、地下貯水槽 No.1 ~ 4,6の漏れい検知孔水(10 箇所のうち2箇所は試料採取不可)、地下貯水槽観測孔(22 箇所)、地下水バイパス調査孔 a ~ c(3箇所のうち1箇所は試料採取不可)、地下水バイパス揚水井 No.1 ~ 4、海側観測孔 ~ についてサンプルングを実施。分析の結果、前回(地下水バイパス調査孔 a ~ c、地下水バイパス揚水井 No.1 ~ 4、海側観測孔 ~ : 5月 28 日、その他: 6月 3 日)実施したサンプルングの分析結果と比較して大きな変動は確認されていない。また、5月 27 日から 28 日にかけて採取した、地下水バイパス(調査孔 a ~ c(3箇所のうち1箇所は試料採取不可)、揚水井 No.1 ~ 4)および海側観測孔 ~ の水についてトリチウムの分析を実施した結果、前回の分析結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上